

2016年  
11月  
22号

# 赤レンガ通信

南富良野町ボランティア

北海道

www.pref.hokkaido.lg.jp

## 南富良野町 ボランティア



10月のきれいに晴れた日。道内の「1」参加者13人は、8月に上陸した台風10号で大きな被害が出た南富良野町のボランティアに参加した。南富良野町では、記録的な暴風雨のため川が氾濫した。道路や橋は流され、建物に水や泥が流れ込み、木々が根こそぎ倒れてしまっていた。収穫期を迎えた畑への被害が大きく、中には跡形残らず流された所もある。そこで、現地の復旧に向けて南富良野ボランティアセンターが作られた。

日の出前に起き、遠いところから来た「1」も多かった。9時に、ボランティアセンターがある古い体育館に集まった。汚れてもいい古着、カッパ、長靴を身につけ準備万端。マイスコップを持って来た人も！

ボランティアセンターのスタッフがとても親切に説明してくれ、大人数にもかかわらず、全員同じ場所で作業できるようにしてくれた。作業場所は、川のすぐそばにあった。積極的に親切な農家の畑だ。

午前中は豆畑の片付け。かわいそうな豆たちが泥まみれになって倒れ、周りにたくさん「ゴミがあつた」ガラスやプラスチックの破片、空きビンや木の枝なども拾った。もはや収穫できない腐った豆を見て、胸が痛んだが、畑をきれいにし、来年の復旧に向けてちよつとも役に立てたと思うと気持ち良かった。

午後は身体だけでなく精神的に負担だった。豆畑はもちろんひどかったが、川辺の被害を目の当たりに

してショックを受けた。農家の方がその場所を「プチグランド・キャニオン」と呼んでいた。氾濫した川の水が川辺の畑を削ってしまったのだ。「この畑だったの?!」という驚きの声が上がった。そこが畑だったことが本当に信じられないほど、景色が変わっていた。ビニールハウスもあつたらしいが、形は崩れ見る影もなかった。午後の作業は、そのハウスの残骸を片付けることだった。

金属製のポールは半分ぐらいが土に埋もれ、さびたワイヤーでつながっていた。その上、ビニールや泥、草木があたりに散乱していた。どこから手をついたらよいのか分からなかったが、とにかくやってみたらとても充実感のある作業になった。

数時間で、三つのハウスのうち一つを半分くらい片付けることができた。朝早くから泥まみれで、つらい作業をしていたのにみんな熱心で、まだまだ続けたい気持ちが強かった。

荷物をまとめていたら農家の方が挨拶に来た。「このエンジンのおいしさをアピールしてくれるなら、ほしだけ持つて行っていいよ」と笑い、隣の畑に案内してくれた。

台風で大きな被害を受けても、わざわざ私たちにエンジンをくれる心遣いがすてきだと思った。彼は自然の厳しさに負けず、前向きに行動するたくましい日本人を象徴している。

北海道国際交流員  
エミリー・シュスター

## ボランティアから一言

自宅も職場も、8月に台風が襲った日高にあります。地元で壊滅状態だったのタマネギ農家の人に会いました。何とかしてあげたかったけど、そのときはどうすればいいのかわかりませんでした。日高よりも南富良野の方がもっと大変だったことは知っていたし、涼しい秋の日を外で手を動かすのも好きだったので、喜んでボランティアに参加しました。この機会を与えてくれたエミリー・シュースターに感謝しています。もし機会があれば、また参加したいと思います。**新冠町 ジャックソン・パワーズ(アメリカ)**

最初に気づいたことはボランティアをした家族の雰囲気でした。畑にゴミや枝があふれていて大変だったのに、笑顔で迎え入れてくれ、しかもかわいい愛猫も紹介してくれました。残骸を前に山ほどしなければならぬ仕事があったけれども、その時間はずっと楽しく和気あいあいでした。家族の皆さんの暖かさに驚きました。皆が元気であることを願っています。**北見市 シャレット・エモット(カナダ)**

ALT(外国語指導助手)としての任務の一つは、住んでいる地域を良くすることだと思います。8月の台風の被害を知って、今回は自分の体を動かして地域をよくする必要があると思いました。正直、南富良野町の状態を見て、ショックを受けました。しかし、南富良野ボランティアセンターの皆さんやボランティアをした農家の方の感謝と前向きな態度にとても感動しました。今まで北海道で経験したことの中で、この活動が一番印象に残ると思います。この機会を与えてくれた人を始め、参加した皆さんに心から感謝しています。

**陸別町 クリストファー・ブラウンオフ(カナダ)**

南富良野町のボランティア活動はできてとてもうれしかったです。台風の被害者を助けながら、JETの皆と親しむ有意義な機会となりました。**旭川市 ジェイコブ・ワーシー(アメリカ)**

人生で初めてのボランティア活動でした。こんなに充実した、心温まる経験になるとは思いませんでした。一日中働くのは思ったよりも難しくなかったです。みんなと一緒に頑張ったので、土に埋もれたボールやゴミを片付けるのは楽に感じました。農家の方はとても優しく、最後にニンジンをくれてとてもうれしかったです。少しだけでも南富良野の力になることができ、とても充実した気持ちで帰宅しました。またボランティアに参加する機会を楽しみにしています。**愛別町 エンジェル・フェイス・アルバラシン(フィリピン)**

台風で南富良野町が受けた被害を目の前にして、自然の厳しさと、人間の弱さを実感しました。ボランティアをするまで、自然災害はテレビで見るものでした。遠くに住んでいる知らない人たちに起こるものでした。身近に起こることとは思いませんでした。しかし、被害に遭った畑へ実際に行き、被災者と触れ合って、災害は誰にでも起こることだし、そこから復活するためには多くの人の助けが必要だと分かりました。もし自分があの立場になったらどうするでしょうか。元の状態に戻るまではどのぐらいかかるでしょうか。ひとりでできるでしょうか。南富良野へ行って、このような疑問が頭に浮かびました。南富良野のボランティアをしなければ、考えることはなかったかもしれません。**美瑛町 ミア・アベ(アメリカ)**





# 北海道 JET スポットライト



北海道にはアメリカ、カナダ、シンガポール、中国、韓国、ドイツ、フランス、ロシアなどから約250人のJETプログラム参加者（外国語指導助手、国際交流員、スポーツ国際交流員）がいます。赤レンガ通信ではたくさんの国々からやって来て現在北海道で暮らす人たちのストーリーを伝えたいです！



## MEET MATT NECHACOV...

マシュー・ネチャコフは名寄市とその周辺地域の外国語指導助手（JET）5年目で、最後の1年になる。カナダのオンタリオ州出身。大学では、英文学と修辞学を専攻した。大学を卒業後すぐ、靴1つで北海道へ来た。

### なぜ北海道へ来たのですか。

ずっと前から海外に住んでみたかったです。大学を卒業し、新しいところへ行っているいろいろなことに挑戦するチャンスだと思いました。他の国も漠然と考えてみたけれど、最終的に日本を選びました。

以前、兄と一緒にバックパックを背負って日本を旅したことがあったのですが、その歴史と文化の深さに感動しました。旅も楽しかったけれど、やっぱり日本には住みたいと思ったんです。兄との旅行では北海道へ行けなかったし、本州から離れているのに（同じ国として）つながっていることが面白くて、北海道に住みたいと思いました。

### これまで北海道の経験はどうですか。

素晴らしいです！今まで経験したことや知りあった人々のことは一生忘れません。まだ日本から離れる心境にはなれません。

### これまで一番印象に残っていることは何ですか。

今までの経験は全てつながっているもので、たった一つを選ぶのは難しいです。強いて言えば、名寄に着いた最初の夜と旭川での結婚式の2つです。僕は

結構落ち着いていると言われますが、そのときは人生で最も緊張していたんじゃないかなと思います。どちらも、ここから自分の新しい人生が始まったのだと思っています。

### 名寄の好きなところはありますか。

うーん、この質問も難しいですね。上川の景色が好きです。山のないところから来たので、どこへ行っても山に囲まれて最高です。とんでもない量の雪が降るところも好きです。カナダ出身なので雪に慣れていると思われませんが、ぜんぜん違います。屋根から雪を下ろすなんて今までやったことありませんでした。今でも信じられません。

### 他に伝えたいことはありますか。

北海道に住んだことは、本当に素晴らしい経験になりました。日本語がほとんど分からない状態で生活を始め、先生やこれまで出会った人々に言葉や文化を教わってきました。日本に住むというのはどういうものなのかを実感するのに、これ以上の方法はないと思います。